

1 基本情報					
施設名又はグループ名		指定管理者名及び団体概要			
都市部の公園・北部グループ		（指定管理者名）公益財団法人 東京都公園協会 （団体の概要）都市緑化の推進、公園や水辺を通じた安らぎとゆとりの提供を目的として設立され、公益目的事業（指定管理者事業を含む）及び収益事業を行う。			
指定期間					
R5.4.1 ～ R10.3.31（5年間）					
2 施設名					
戸山公園・善福寺公園・高井戸公園・浮間公園・赤塚公園・石神井公園・大泉中央公園・練馬城址公園					
3 管理運営の概要					
基本理念： みんなが「いきいき」水とみどりのサステナブルパーク 【パートナーシップ】 公園がまちの顔に、暮らしの真ん中に ・5月に新規開園した練馬城址公園では、パークミーティングを開催し、地域ニーズの汲み取りと実現を推進した。 ・地域の企業や学校等との積極的な連携による事業展開や、ボランティア等との都民協働を通じたコミュニティ形成を推進した。 【インクルーシブ】 みんながふらり、気軽にコミュニケーション ・子育て支援のNPO法人や児童養護施設と連携した「子どもの居場所づくり」を推進し、自然体験プログラムの提供やインターンシップ活動を支援した。 ・視覚障害者支援総合センターや養護学校と連携し、視覚に頼らず自然を体感できる園内散策ガイド等を初開催した。 【レガシー】 自然・歴史資源、時代をつなぐ公園づくり ・水辺の保全活動に関する全5回の講座を通じた生態保全ボランティアの新規立上げや、高校の課外活動とのコラボによる希少種の保全活動を推進した。 ・護岸崩落や、給水ポンプの不具合等の公園環境に重大な影響を及ぼしかねない緊急事態に際しても、東京都と連携しながら積極的な改修提案と対応を行い、地域に愛される資源や景観を維持した。					
4 管理状況（維持管理）					
・新規開園後に発覚した電気設備やトイレに関する不具合や、インクルーシブ遊具に関する改良について、協会の技術チームや専門業者と連携しながら積極的な改善提案や対応を行い、安全性や利便性の向上に繋げた。（練馬城址） ・「土の再生プロジェクト」を立ち上げ、これまで廃棄していた内藤とうがらしのプランターの土（約3,500L）を堆肥化する取組を開始し、地域ぐるみでSDGsを推進した。（戸山） ・池の護岸が崩落する緊急事態が発生した際は、迅速な安全確保に加え、専門業者による調査に基づいた適切な施工方法を検討のうえ、東京都へ提案・協議し、速やかな補修により安全・安心な園内の利用環境を維持した。（浮間・石神井） ・園地に接続する「善福寺公園」バス停留所における区道と園路の段差について、車いすの乗降の支障解消のため、東京都・杉並区と連携のうえ、バリアフリー化を実施した。（善福寺） ・野球場の場外へのフェールボール対策として、東京都と施工方法について協議を重ね、防球ネットを設置し、安全・安心な利用環境を確保した。（高井戸） ・利用者参加型でのブルーギルやアメリカザリガニ等の外来種駆除や、ボランティア等との協働による希少種保全を推進した。（善福寺・浮間・赤塚・石神井・大泉中央）					
5 利用者アンケート結果					
実施方法：公園内で調査票を配布・回収／QRコード掲示によるWEBアンケート					
施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の対応
戸山公園	4.9	4.8	4.7	4.8	4.9
善福寺公園	4.8	4.6	4.6	4.7	4.8
高井戸公園	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9
浮間公園	4.8	4.8	4.6	4.6	4.7
赤塚公園	4.8	4.8	4.6	4.8	4.8
石神井公園	4.8	4.9	4.6	4.8	4.8
大泉中央公園	4.8	4.7	4.7	4.8	4.9
練馬城址公園	4.7	4.8	4.7	4.7	4.8
6 入園者数の状況（単位：人）					
施設名	当該年度	分析			
戸山公園	947,696	近隣施設、大学、団体等との連携が更に拡大し、各種イベントで参加者が増加する等、公園の魅力を高めた。			
善福寺公園	785,254	視覚障がい者を対象とした園内散策や子どもの居場所づくりイベントを初開催し、インクルーシブを推進した。			
高井戸公園	465,395	東京都と連携したフェールボール対策や、追加開園に伴う課題解決を図り、安全性、利便性を向上した。			
浮間公園	1,348,322	協議会の自発的な企画・運営による、青空保育園や月の観望イベント等の新たな事業をさらに推進した。			
赤塚公園	802,829	高島平グランドデザインとの新規連携や、新たなパークミーティングの開催で地域の活性化に繋げた。			
石神井公園	1,478,201	新規生態保全ボランティアの立上げや、利用者参加型の外来種駆除等、都民協働による生態保全を推進した。			
大泉中央公園	270,933	児童養護施設や特別支援学校等と連携したアート展示やマルシェ等、多様な主体の参画を推進した。			
練馬城址公園	1,343,990	地域との積極的な連携や、新規開園に伴う課題解決で、開園一年目より様々な事業やイベントを展開した。			
合計	7,442,620				



戸山公園

所在地：新宿区／開園面積：18.64ha

多様な世代や国籍、文化が
交わる活気あふれる公園



様々なコラボ事業で、都心のオアシスを満喫！

産×学×公園による新たな自然体験！

早稲田大学や近隣図書館、民間企業等5団体とのコラボで、**新たに年間10回**の子ども向け自然体験プログラムを開催。学芸員や現役大学生による科学ラボ、箱根山での星空観察、昆虫・野鳥の観察会など、それぞれの専門性を活かした事業を展開し、延べ**314人（前年比：147%）**の子ども達に、都心のオアシスを満喫してもらった。

また、新宿歴史博物館等とコラボした歴史ガイドツアーも**年5回**開催し**132人（前年比：174%）**が参加。JR新宿駅と連携したハイキングイベントでは**1,900人**が箱根山に登頂した。

都心で星空が見られるなんて感激！



棄権もなくみんな最後までやりきりました！

スポーツセンターと連携して公園をフル活用！

園内のジョギングコースと、スポーツセンターのプールのコラボによって「**2023新宿アクアスロン大会**」を開催。その他「**特別かけっこ教室 運動会で使える走り方のポイント教えます！**」や「**SOTOヨガ**」など、**過去最多7回**のスポーツイベント開催し、**126人（前年比：268%）**が参加した。



みんなで楽しく地域のクリーンアップ大作戦！

どんどん広がるクリーンアップの輪！

ボランティアの清掃活動が、**目白大学や東戸山小、障害者活動の2団体等の連携**によって、さらにパワーアップ。環境問題に絡めたワークショップや清掃工場見学、ハロウィン等の季節イベントも併せて行うことで、楽しいゴミ拾いを実践し、車いすのお子さんも参加するなど**延べ14回**の開催で**893人（前年比：123%）**が参加し、規模が飛躍的に拡大した。さらに、SNS「ピリカ」を活用した清掃活動の見える化も推進した。

楽しいから続けられます！





戸山は歴史の宝庫！ 歴史資源の活用で新たな価値と魅力を創出！

野外演奏場跡を活用した「箱根山演劇祭」が始動！

地元の大学や小劇場、WEB新聞、ラジオ等と連携した広報活動で広く参加者を募り、現地合同見学会やワークショップを経て、**ゼロから参加団体を発掘**。学生から社会人まで幅広い団体が出演する「箱根山演劇祭」が始動し、**計5団体**による公演で、**272人**を動員した。アンケートでも、野外劇場ならではの解放感や新鮮味、周辺環境とのマッチングについても称賛の声が多数あり、来年度以降も多数の開催希望が寄せられるなど、施設の利活用に繋がった。

箱根山を新たな演劇の整地に！



戸山公園から循環利用を発信！

内藤とうがらしプロジェクトでSDGs！

これまでに連携してきた早大、目白大に加えて成城中学・高校、戸山図書館、新宿NPO協働推進センター等も**新メンバー**に加わり「**土の再生プロジェクト**」を立ち上げ。内藤とうがらしは連作障害が発生するため、これまでに地域ではプランターの土を廃棄する事例もあったが、園内にバイオネストを設置することで土の堆肥化を図り、**約3,500L**の土の循環利用に繋げ、**地域ぐるみでSDGs**を推進した。



大久保ツツジの魅力の世界に発信！

大久保ツツジの普及・促進活動が世界に配信！

区や大久保地区協議会とのコラボで、大久保ツツジの普及・復活を目的とした「挿し芽会」では新たに、**250本**の挿芽をつくるとともに、各家庭で大事に育成された苗が戸山公園に里帰りを果たした。樹木医も交え、育成技術等を共有する「**サポーター交流会**」等の取組も注目を集め、**NHK WORLD-JAPAN**の「**DIVE IN TOKYO**」の取材があるなど、大久保つつじの普及・促進活動を、広く発信することができた。



多文化共生社会の急拡大、外国人にも優しい「自助」「共助」

過去最大のコラボで、留学生受入れ訓練を実施！

初参加の日本語学校を含めて、延べ4校の留学生等を対象とした防災訓練を実施。参加者は**約60カ国**、**計2,600名以上**となり、大幅に地域連携の輪を拡充した。

訓練内容も、区や消防、スポーツセンターとの連携で、従来の避難誘導訓練から、**AED、心臓マッサージ等の応急救命や、ケガの手当等の応急処置を含む実践的な訓練に強化し**、留学生からも「初めての経験ばかりで、日本で暮らすうえで貴重な体験になった」等の感想が多数あった。

留学生にとっても日本の地震は脅威





善福寺公園

所在地：杉並区／開園面積：8.02ha

地域一体で、武蔵野の豊かな
自然と文化を守り育てる公園



「誰もが楽しく過ごせる公園に！」善福寺公園のおもてなし

視覚に頼らない園内散策ガイドを初実施！

(社) 視覚障害者支援総合センターとのコラボで、視覚に頼らず自然に触れる園内散策ガイドを**初開催**。春・秋延べ**70人**が参加し、樹木や葉の肌触り、花の匂い、落葉の感触、せせらぎの冷たさ、木漏れ日の揺らめき、野鳥のさえずりなど、季節の移り変わりを体感できるプログラムを、**植物・野鳥ボランティアと協働で企画し、提供**。参加者は「こんなに感覚を研ぎ澄ませたのは初めての体験」と大変喜んでいただけた。

「子どもの居場所づくり」を善福寺で初開催！

NPO法人キッズドアとの連携で、家庭の事情で普段公園で遊ぶ機会が少ない子ども達を招いた「**自然まんきつ！善福寺公園**」を**初開催**し、定員超える申込となったため抽選で**12組28人**が参加。元日本野鳥の会理事による野鳥観察会や、焼芋体験、ボート乗船などの自然体験プログラムを提供し、公園の発生材を活用したクリスマスリースをプレゼント。子ども達に公園や自然の魅力を知ってもらい、**今後の公園利用や外出機会**に繋げることができた。

公園の中でも外でも、善福寺の魅力を最大アピール！

野鳥画家とのコラボで3公園のPR活動を実施

日本唯一の野鳥図鑑画家、谷口高司氏の絵画作品展「風光明媚な鳥～野鳥図鑑画家の旅～」とコラボし、氏が生まれ育った善福寺公園、野鳥観察の魅力に目覚めた石神井公園、としまえん時代から馴染みの練馬城址公園の**3公園の魅力**を、野鳥絵画**90点**に絡めて紹介する**初の企画**。

新宿ヒルトピアアートスクエアでは、3公園のSC長も駆けつけ、**314人**の来場者に各公園の魅力をPRした。

体全体で感じる公園散策を実施



焼き芋体験など楽しいイベントを実施



ヒルトンH隣接のギャラリーで公園をPR





地域とともに新たなチャレンジ！魅力がいっぱい、善福寺公園！

地域のニーズを実現した150周年記念イベント

「公園をライトアップしてみたい！」という地域の声を受け、地域と協働して、都立公園150周年を記念して、150の手作り行灯を灯すライトアップイベントを**初開催**、**1,200人以上**の来場者で賑わい、多くの激励をいただいた。また、「防災イベントをしたい！」という声を受けて、**デイキャンプを兼ねた地域防災イベント**を**初開催**し、**237人**の親子連れを中心に楽しく、自助・共助の意識を高めてもらうことができた。

未来の公園に向けた「きうえまつり」

同じく150周年記念事業の「みんなで公園アニバーサリーツアー日和」に合わせて、ナラ枯れで伐採したクヌギの近くに、善福寺公園のドングリから育てた**苗10本**を、子どもたちと植樹するイベントを開催。ずっと見守ることができるように観察日誌「きうえまつりノート」をSCに常備することで、愛着をもって水やりなどをしてもらい、地域一体となった善福寺公園の保全につなげることができた。

150周年を150個の行灯でお祝い



10本のクヌギを子どもたちが植樹



人にも自然にも優しい、善福寺公園の維持管理

都、区との連携で、車いす対応のバス停に

「善福寺公園」バス停留所は、区道と園路の間に段差があり、車いすの乗降に支障があったため、東京都・杉並区・公園協会が連携して、**バリアフリー化**を実施。様々な協議を重ねつつ双方で段差をなくすことで、車いすでもスムーズな乗降りができるフラットスペースを創出し、**インクルーシブな利用環境**を整えた。改修後は、車いすをご利用の方やご家族から感謝の言葉をいただいた。

車いすの方もアクセスしやすい公園に！



遅野井川の生物を保護しつつ、ポンプを改修

揚水ポンプの経年劣化によって、上の池の水位や、遅野井川親水施設への流量が低下してしまうなどの影響が発生。生態系への影響も危ぶまれたことから、東京都・杉並区・公園協会・生物ボランティアで、改善に向けた検討を重ね、作業に伴う止水時は下の池から仮設ポンプで一時給水するなど、**生物保護対策**も万全に補修を無事完了し、善福寺公園の豊かな生態系や美観を維持することができた。

関係者間の協議で豊かな生態系を保全





高井戸公園

所在地：杉並区／開園面積：9.53ha

親子連れをはじめとした地域
ぐるみでつくる、わくわく公園



「あおぞら会議」の推進で、もっと楽しい公園へ！

新たなサービスセンターがオープン！

南地区の新SCへの引っ越しによって、これまでに築いてきた来園者との関係が希薄にならないよう、旧SCをスタートし、新SCでゴールするスタンプラリーを開催し、**100人の親子連れ**が参加。また、**新SCには「キッズスペース」**を設け、工作イベントなどを開催。SC前のプランターに親子連れ**50人**とともに花苗を植付け、水やりができるよう工夫するなど、引き続きSCに親しみを持ってもらい、ともに公園をつくっていく下地を醸成した。

キッズスペースは大人気！



新たな利用方法に大きな反響！

杉並区とのコラボで子どもの遊び場を創出

地域とともに公園を考え、つくる場「あおぞら会議」での「もっと遊具がほしい！」という声をもとに、杉並区やNPOと連携して昨年度から進めてきた**出張版プレイパーク**が実現。**557人の子ども達**が、普段の公園や家庭ではできない冒険あそびを満喫した。「都民の声」宛にも、**激励と次回開催を願う声が届く**など、公園への新たなニーズの掘り起こしにもつながった。



地域一体となった防災力の向上「あおぞら防災会議2023」

地域連携の強化によってバージョンアップ！

区危機管理室、消防署、杉並区地域防災コーディネーター、地元町会等、連携を大幅に拡充することで、防災イベントをバージョンアップ。防災ドローンの飛行実演など、**新たな試みも実践し、昨年の3倍以上となる100人**が参加した。かまどベンチやマンホールトイレの組立体験のほか、家族で防災マップを作成するワークショップ等、**実践的、実用的な防災イベント**とすることができた。

地域と連携した炊出し訓練





ニーズに合わせた様々な体験学習をコーディネート

視覚障害のある子ども達も公園を満喫！

継続的な働きかけと調整により、都立久我山青光学園とコラボした樹木観察会が**ついに実現**。視覚障害のある**中学生20名**に、触覚や嗅覚による樹木識別に加えて、樹木点検の一つである打音検査により聴覚でも樹木の健康状態をチェックし、公園や自然をより身近なものとして感じてもらうことができました。

またコラボ第2弾として、**小学生5名**に防災体験会も実施。マンホールトイレ等の防災施設に触れてもらいながら、災害時対応を説明し、実際に災害時のイメージをつかんでもらった。

興味津々で、みんな顔が輝いています！



富士見丘小学校とのコラボ花壇を制作

富士見丘小が公園の隣に移転したことを機に、職員と児童がともに育てる花壇制作を、デザインとともに小学校にプレゼン。学校側も快諾し、**宿根草の株分けや、球根の分球による、サステナブルな花壇**を設置した。植付後からその後の管理も児童たちと共同で行うことで、美観向上とともにSDGs等の環境学習にも寄与した。

栽培委員会のみんなと



追加開園に関する様々な課題と改善に向けた取組

野球場のファールボール対策

昨年度の供用開始後に発覚した場外へのファールボール対策として、近隣への丁寧な対応と説明に努めるとともに、東京都と施工方法について協議を重ね、**防球ネット**を設置。工事に際しては、利用者にも丁寧な説明を行い、**場外飛球は「0」**となり、安全・安心な利用環境を確保した。

安心してプレーが可能に



東京都との連携で、新たな課題も全力解決！

新たにオープンした球技場は、サッカー／ラグビー兼用など、設置例が少ない施設のため、ゴールポストの**組立マニュアルを作成のうえ、組立動画をQRコード化**して掲載。組立・片付けに利用者が習熟するまでは職員がサポートし、事故や利用者入替時のトラブルを防止した。

また、**四阿の夜間照度確保のためのソーラー灯設置**や、新設の**駐車場出入口の見通し確保による事故防止対策**等、東京都と連携しながら的確に対応した。

職員がいないに指導





浮間公園

所在地：板橋区、北区／開園面積：11.73ha

伝統と新たな文化の融合で、
まちの賑わいを生み出す公園



チームUkiUkiミーティングによる公園と地域の更なる活性化

新たな財源確保にチャレンジ！

地域協議会チームUkiUkiミーティングによる「UkiUkiマルシェ」や「キッズスマイルフェスタ」の規模を拡充。実施回数も倍増し**計4回、延べ約3万人**の来場者で賑わった。これらイベント収入等を財源とすることで、これまでのクラウドファンディングに代えて「**1万本のチューリップ**」事業を運用することができ、親子連れを中心とした「うきうき隊」や近隣8保育園を含む、**437人**の参加者とともに球根植えを行った。

公園の賑わいをチューリップに還元



「凄い！教科書みたい！」と大興奮！

地域ニーズを受けた新たな体験型プログラム

星空の学校（月まち倶楽部）と連携して「NASA国際お月見デー」に合わせた**月の観望イベントを初開催**。初めての夜間イベントにも関わらず**約200人**が参加し、広場は大きな興奮に包まれた。

また「うきうき隊」主体のワークショップやヨガ教室、プチマルシェ等を**毎月開催**。地域の賑わいやくつろぎ空間を創出する「うきまガーデンカフェプロジェクト」を推進した。



「ブルーギルバイバイプロジェクト」によるSDGsの推進

浮間公園ならではの生物多様性の普及啓発

親子で楽しめる釣り体験イベント「うきうき親子釣り体験」を**2回開催**。釣った魚は水槽に移して観察し、在来種や外来種の違いや、生態保全活動「ブルーギルバイバイプロジェクト」の取組について解説した。浮間公園ならではのアクティビティ「釣り」を通じて、楽しみながら外来種駆除に協力してもらい、**年間約280kg**の回収と堆肥化による園内循環に繋げることができた。

何が釣れたかな？みんな興味津々！





子どもからお年寄りまで、インクルーシブな広場づくりに向けて

いつも楽しみにしています♪

子育て世代を応援、コミュニティ形成の場！

近隣保育園と連携し、親子向けの紙芝居やミニゲームのワークショップを実施する「青空保育園」を**初開催（計7回）**。近隣の親子連れを中心に**延べ約280人**が参加し、新たな賑わいを創出するとともに、核家族化や近隣関係の希薄化により孤立しがちな育児に悩みを抱える子育て世代のコミュニティ形成の場を提供することができた。



久しぶりに土に触れることができました♪

高齢者施設とも新たな連携！

浮間高齢者あんしんセンター、ケアセンター絆との新たな連携で、レイズドベッド花壇を活用した花壇づくりに**初挑戦（計2回）**。粒が大きいたねダンゴを使うなど、手が不自由な方でも作業しやすいように工夫し、63人が参加。親子連れの飛び入りもあるなど、誰もが気軽に参画し**多世代が交流するインクルーシブな公園利用**を促進することができた。



東京都事業との積極的な連携で、更なる魅力アップ！

150th記念事業 & 花と光のムーブメント

都立公園150周年事業の一環で、公園でやってみたいことを一般公募し、ハロウィンパレードを開催。**積極的な広報活動により約200人**が参加し、事業を効果的にPRできた。

また、「**花と光のムーブメント**」では、区や地域との積極的な調整役を担うことで**地元資源であるサクラソウを活かしたライトアップ**も展開し、地域の貴重な歴史や資源を広く周知することができた。

都立公園150周年をみんなでお祝い！



迅速かつ的確な対応で、公園の安全・安心を守る

護岸崩落時の初期対応、施工提案、補修作業

日頃の巡回や警報発令に伴う点検によって、園内で異常があった場合はいち早く察知。浮間が池の護岸が**4mに渡って崩落**するなどの緊急事態が発生した際は、迅速な安全確保に加え、専門業者による調査に基づいた**適切な施工方法を検討**のうえ、**東京都へ提案・協議**し、速やかな補修を実施。安全・安心な園内の利用環境を維持した。

安全第一に配慮した緊急補修





赤塚公園

所在地：板橋区／開園面積：25.54ha

地域とともに歴史と自然と
アートを紡いでいく公園



赤塚公園のポテンシャルを引き出す新たな取組

「高島平グランドデザイン」との新たな連携

高島平グランドデザインを推進する板橋区、UR都市機構等と連携した地域活性化イベントを**初開催（2回）**。昨年度からの関係各所への積極的なアプローチにより、トヨタモビリティ東京、あいおいニッセイ同和損保、大東文化大、高島平警察署、地元商店街等の協賛を得て、**地域の回遊性や連続性を意識した乗り物や食、防災等の幅広いコンテンツを展開し、親子連れを中心に広く近県から延べ約4,000人の来場者で賑わった。**

ランバイク「高島平カップ」は大盛況！



地域の多様な意見交収集と実現の場「パークミーティング」

「赤塚公園パークミーティング」の開催

地域の自治会、教育機関、企業、ボランティアほか**23団体**が一同に会し、**多様な主体から意見や提案を募り、共に実現を図っていく「パークミーティング」を新たに開催**。整備等に関する要望だけではなく、地域が積極的に運営に関わっていく場であることを丁寧に説明することで、次第に地域連携によるイベントや防災訓練、都民協働に関する前向きな意見も多く聞かれ、**今後の地域参画の機運を醸成**することができた。

皆さんが主役となり管理に関わっていく場！



多世代に渡る都民協働を推進

昨年度からの調整で、ニリンソウ保全に関わるボランティア活動に、**高島高校の定期参加が実現**。メンバーが高齢化するなか大きな戦力となり、多世代交流によるメンバーのモチベーションアップにもつながった。

また、ボランティア6団体や板橋区との協働による「どんぐりまつり」には**約860人（R4比：115%、R3比：230%）**が来場し、赤塚公園の豊かな生態系をアピールした。

高校生も加わり、保全活動が活性化！





「アート」×「公園」をコンセプトに、地域を活性化！

地域連携や開催規模を大幅に拡充！

地元の企業、商店会、アーティスト、児童館、中・高・特別支援学校に加えて、新たにUDCTak（アーバンデザインセンター高島平）の協力も得て「東京五感公園2023」を開催。本年度のテーマはハロウィンにちなんで「あやしい移動サーカス」とし、アーツカウンシル東京の助成金も得て、ジャズやピエロのステージ、地元のクラフトマーケット**10店舗**（R4：3店舗）など、**内容も大幅に充実**。子どもから大人まで幅広い世代が楽しめる夜間イベントを展開することで、**3,200人**（R4比：**160%**）が来場し大いに賑わった。

夜の赤塚公園が大賑わい！



地域の魅力が詰まったマーケット



地域発！オリジナリティ溢れるイベント

「東京五感公園」では、親子連れによる飾り付けワークショップや、地元のアーティストや特別支援学校2校などによるアート展示など、地域の力をフル活用。**ハロウィンコンテストは、企画から運営まで高島高校の演劇部が取り組む**という初めて試みで、地域一体となってイベントを盛り上げ、**公園や地域の活性化**を推進することができた。

地域一体となった維持管理で、赤塚公園の自然をいつまでも

園児から高校生まで、地域の学校が大活躍！

もみじ保育園、つぼみ保育園との**新たな連携**で「花育」活動がスタート。ボランティアとともに、一つ一つ花苗を大事に植付け、その後も「お水あげ隊」として、定期的に水やりに参加してもらい、園内美化とともに環境学習に寄与した。

また、高島高校とのコラボで**660人**、高島特別支援学校とのコラボでも**100人**の大規模な清掃活動を実施し、合計**900** **ゴミ袋600個**の落葉を回収し、地域の美化意識向上にもつながった。

子ども達も公園づくりに積極的に参画



長期的視野による維持管理

自然豊かな崖線部における、**城址地区のナラ枯れ**の正確な状況把握と対策のため、**QGIS**を活用した管理を推進。園路や近隣施設に隣接し危険性が高い箇所から、優先的に伐採処理を進めた（31本）。

また、**中央地区と番場地区の老木化が進むソメイヨシノ**について、**後継木50本**を植樹し、地域に親しまれている赤塚公園の景観維持を図った。

崖線部の豊かな生態系をいつまでも





石神井公園

所在地：練馬区／開園面積：22.62ha

地域で育む豊かな自然、小旅行気分も楽しめる都会のオアシス公園



地域の豊かな自然を、地域と一体となって全力発信！

注目の牧野記念庭園と初コラボ！

NHKの朝ドラで注目が集まったことを機に、**牧野記念庭園との初連携**による地域周遊ツアーを開催。牧野記念庭園から、3つの区立公園や緑地を経由して石神井公園に至るまで、牧野博士の石神井・大泉エリアでの業績や、三宝寺池で採取したミズニラなどについて学芸員が解説を行い、地域の豊かな自然の魅力を発信。聴覚障害の方にも分かりやすいよう、図解資料の配布とともに、ホワイトボードで解説を行った。

地域の自然や未来をみんなで考えよう！

地域連携によるサステナブルイベント「THINK ETHICAL PARK DAY」は**新たに9団体**が加わり、**合計14ブース**を展開。園内の発生材を用いた楽器づくりと演奏会、廃材あそび、SDGsに関連する絵本の読み聞かせなど、参加型ワークショップやステージを通じて、**1,200人（前年比120%）**の親子連れを中心とした来場者に、楽しく公園や自然の魅力を体感してもらうことができた。

牧野博士は石神井公園の自然も観察



石神井オリジナルのSDGs イベント

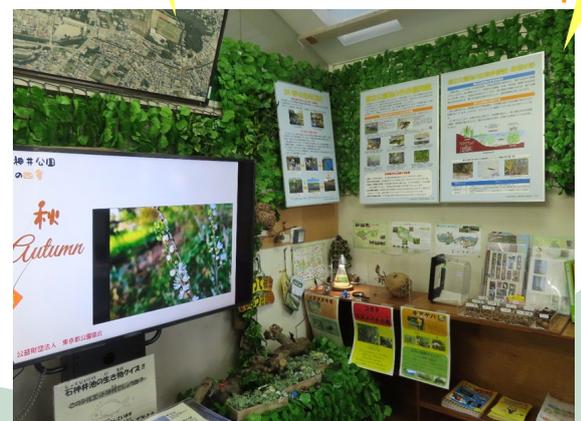


居・触・自遊のワクワク空間「生態INFOコーナー」が誕生！

子どもからシニアまで幅広い世代の憩いの場

昆虫の生体展示や、在来魚類の水槽、スズメバチの巣等の標本展示に加えて、教育玩具を販売し保全活動に還元する「生態INFOコーナー」を**新たに設置**。幅広い世代に「居」心地よく、見て「触」れて、「自」ら「遊」びを学ぶ「居・触・自遊」の空間を提供。また、X（旧Twitter）の発信も好評で、年間で**431件**投稿し、フォロワー数はついに**5千人超え（5,578人、前年比128%）**となった。

石神井公園の魅力がいっぱい！





みんなで守り育てよう！ 広がる、繋がる、生態系保全の輪

「石神井公園 生物多様性部」が発足！

昨年度実施した全5回の講義・実技からなる講習会の修了メンバー**52人**による「石神井公園生物多様性部」が**新たに発足**。専門的な知識やスキルがパワーアップしたことで、**ブルーギル3,262匹（前年比276%）**等の外来種を駆除し、環境改善に繋がった。大人数での作業は、周囲への視覚的なアピールにもなり、生態系保全の意識や関心を広く高めることができた。

私たちが生物多様性部です！



アメリカザリガニBYEBYEプロジェクトの推進

アメリカザリガニが条件付特定外来生物に指定されたことを受けて、「アメリカザリガニBYEBYEプロジェクト」を強化。NPOや地元の活動団体との連携や、普及啓発イベント「三宝寺池自然誌学校」を通じて、外来種による生態系への影響について親子連れに分かりやすく解説しながら、ザリガニ釣りを楽しんでもらい、捕獲数は**2,190匹（前年比▲67%）**となり、繁殖個体数の大幅な削減に繋がったと推察される。

合言葉は「楽しく遊んで生態保全！」



地域ぐるみで蝶々園プロジェクト！

バタフライガーデン「蝶々園」では、石神井図書館や日本鱗翅学会との連携で、様々なテーマで**計5回**の観察会を開催し、**延べ74人**が参加。東村山中央公園や武蔵野の森公園のバタフライガーデンとも連携して、蜜源や食草となる花苗を参加者にプレゼントし自宅で育ててもらうことで、**生物多様性の保全の輪を地域に広げることができた**。

おうちでも育ててみるね！

また、東京大学で開催された日本鱗翅学会でこれまでの活動について講演を行うなど、石神井公園の取組を積極的にPRした。



「子どもの居場所づくり」の新たな企画を開始

公園ならではのアプローチでインクルーシブに貢献

児童養護施設「東京都石神井学園」との連携で、生徒達の社会貢献を念頭に置いた**新たな体験プログラム**を展開。施設の子供達達が就職活動等で自らの体験を語ることに苦労しているという課題に際して、職員が積極的にコミュニケーションを取りながら、落葉清掃や、かまどベンチでの防災体験を行い、公園ならではのサポートで、参加した高校生に大きな達成感と自信を持ってもらった。

とても有意義で、今後の自信になりました！（生徒談）





大泉中央公園

所在地：練馬区／開園面積：10.30ha

近隣公園との連携をリードし、
地域を元気にする公園



「包み、支えあう」地域の力！みんなが主役、インクルーシブの実践

子どもの居場所作り『真夏の大冒険！』

児童養護施設「東京都石神井学園」から小学生を招待し、様々な自然に触れる体験型プログラムやじゃぶ池遊び等を提供する**新たな企画**を展開。引率スタッフからも「普段見られない表情や笑顔があり、驚いた」との声もあり、**公園や自然への興味や関心が湧き、外出意欲や公園の利用機会に繋げることができた。**

垣根を超えた、『インクルーシブミニマルシェ』

隣接する区立・県営公園との連携イベントに、練馬区と和光市の就労支援施設3施設と、近隣のフルーツショップとコラボした「インクルーシブミニマルシェ」**4店舗**を展開（R4は**2店舗**）。手作りパンやジャム、地場野菜など、すぐに完売したのもあり、**施設スタッフの自信に繋がった。**

特別支援学校と連携『アート展示』

大泉特別支援学校の生徒が制作したアート作品展を**年6回、計60作品**を屋外展示し、一般利用者との相互交流を促進。多様な主体が参画する公園づくりを推進した。

公園や自然ってこんなに楽しいだね！



手作りや地産にこだわった商品が人気に



地場野菜を通じて地域コミュニティを活性化

練馬と言えばやっぱり大根！みんなで野菜づくり

農が盛んな立地を活かして、園内の花壇に**新たに**「キッズファーム」を設置。子育て支援のNPO、近隣中学校、花壇ボランティア等、幅広い世代と連携して野菜を育てるプロジェクトに**延べ57人**が参加した。練馬区の地場野菜の種まきや水やりなど、失敗もしながら収穫に至るまでの体験を通じて、**多世代交流や、子ども達の食育にも寄与**できた。

見て！こんな大きい大根できた！





バージョンアップ！「みる・さわる・たのしむ」キッズプロジェクト

みんなでワクワク！夜の昆虫探検！

夏休みならではの非日常体験を！

夏休みイベント「夜の生き物観察会」を**初開催**。カブトムシやスズメガなどの白布に当てた水銀照明に集まる虫、羽化途中のセミ、コウモリなどに子どもたちは大はしゃぎ。夜行性／昼行性の特長や、虫にとっての水銀灯／LEDの違いなどの説明には保護者も真剣に耳を傾け、**酷暑でも熱中症のリスクなく参加**できる大満足のイベントとなった。



虫たちは春夏秋冬「オンシーズン」！

虫たちの越冬場所を確保し、観察もできる「虫たちのかくれ家のぞき窓」を**18基に増設**し（R4は10基）、めくった裏面には虫の写真や解説を載せることで内容をバージョンアップ。ジュート布を樹木に巻いた**新たな仕掛け「木のはらまき」**では、ゴマダラチョウの幼虫やマツの益虫ヤニサシガメが集団で越冬する様子を確認した。四季を通じた体験型プログラムに、**延べ34回506人**が参加し、地域の親子連れからは「虫と遊べる公園」として定着した。

めくって発見！冬にも虫がいるんだ！



普及啓発や維持管理における、新たな挑戦！

生き物をもっと身近に！「あおぞら図書館」を新設

サービスセンター前の「生態INFOコーナー」では、多様な虫の生体展示に加えて、教育玩具の販売、「わくわく自然ガイド」等のパンフ配布（**年間18企画、2,029枚**）を展開。ちょうの里のコミュニティボードでは、月替りの参加型モニタリング企画を展開し、**延べ833人**が参加した。

また、教育玩具の売上還元で、自然や生物の絵本や図鑑**60冊**を購入し、「あおぞら図書館」を**新たに開設**。子ども達の興味・関心の育成と学びの場を提供した。

あおぞら図書館で興味・関心がUP！



QGISの活用で維持管理業務を効率化

QGISソフトを活用して園内の**全ての樹木と植込みの位置**をデータベース化した。園内樹木の全容を把握し、特に点検木やナラ枯れ等をレイヤーごとに分類することで、職員や業者間での正確な情報共有と作業効率化に繋がり、**倒木や落枝**等による事故防止を徹底することができた。

正確な状況把握で対応力UP！





練馬城址公園

所在地：練馬区／開園面積：3.21ha

地域とともに考え、つくる
水と緑のふれあい公園



都立練馬城址公園がついにオープン！

地域でお祝い！開園記念イベントの開催

地域の活動団体やNPO、学校、町会など**計12団体・120人**と協働して開園記念イベントを開催。地元の音大やキッズYouTuberのステージ、出張プレーパーク、JAのマルシェ、町会主体の木工工作、としまえんのドングリ苗木による記念植樹など、親子連れを中心に**43,000人以上**の来園者で賑わい、地域と一体となった運営で、「みんなでつくっていく公園」という協働の下地を築くことができた。

みんなでせーの、開園宣言！



開園に伴うルールづくりや安全対策

開園準備は万端に！安心・安全な場の提供

開園当初は、河川沿いでの自転車のスピード走行や、芝生での犬の放し飼い等に関するトラブルが発生したため、巡回や掲示でルールやマナー周知を徹底。駅前の不法駐輪は、地道な対策によって、開園から一カ月で**「0」**を達成した。

また、6月にスタジオツアーがオープンした後は、**ワーナーと連携**しながら来場者誘導や待機列の整理を行い、動線の妨げや接触等を未然に防止し、安全で快適な園内環境を確保した。

スタジオツアーによる混雑も協力して解決



地域一体となった防犯対策とルールづくり

開園以前より、夜間の不適正利用について地域から不安の声が寄せられていたことから、**警察や町会と連携した夜間パトロール**を実施し、スケボーや損壊行為等を抑制。

また、花火利用に関するニーズを受けて、**地域の活動団体や花火メーカー等**と協働して近隣の理解を得るべく**マナーアップイベント**を開催し、**55人**(申込400名、抽選)が参加。みんながルールを守り、苦情やトラブルなく花火ができる素地を醸成することができた。

プロが教える安全とマナー講習





公園づくりに地域が参画、パークミーティング！

地域の様々な「やってみたい！」を実現

地域一体となった賑わいの創出や防災力の向上のため、地域の活動団体やボランティア、町会等が参画する**パークミーティング**を**9回**開催。地域のニーズに丁寧に耳を傾け、様々な「やってみたい！」をサポートすることで、地域マルシェや防災イベント、地域を周遊するスタンプラリーや、歴史や地形のガイドツアーなどが実現し、公園だけでなく地域の魅力アップと活性化につながった。

地域と考え、つくる、コミュニティ花壇

地域一体となった大規模花壇の運営に向けて、まずは公園や自然に関心をもってもらえるよう、**自然観察会**や**お手入れワークショップ**を**22回**開催。並行して気軽に参加できるお手入れ会を定期開催し、職員がファシリテートしながら、**メンバー自身がテーマを決め、デザインし、運営していく「にじいろ咲かせ隊」**が誕生した。活動を通じて、多世代交流やコミュニティ形成にも寄与することができた。

公園でこんなことやってみたい！



私たちが、にじいろ咲かせ隊です！



地域防災拠点、いつも安全・安心な練馬城址公園

楽しく学ぶ！防災イベント「あそぼうさいフェス」

地域の避難場所として積極的な役割を担うべく、区、消防、町会、ガールスカウト等、地域16団体・68人と協働した**普及啓発イベント「あそぼうさいフェス」**を開催。防災トイレやかまど野外卓の実演のほか、消火器訓練、ペット避難講演会等、クイズラリーやワークショップを交えながら、子ども達も楽しく学べるイベントで**約13,000人**が来場した。その他、町会等と連携した防災訓練や、**スタジオツアーと連携したテロ対策訓練**等も実施し、地域ぐるみで防災意識の向上につなげた。

地域一体となった「共助」に取り組みます



ドングリの投入口を改良して、より安全に♪

東京都と連携した積極的な施設改善

障害のあるなしに関わらず誰でも遊べる**インクルーシブ遊具**でより**安全・安心に遊べるよう**、遊具メーカーや東京都と連携しながら、**転落防止対策や、ドングリ投入口を改良**。

また、開園後に発覚した電気設備やトイレに関する不具合についても、**専門知識を有する公園協会の技術チームが調査のうえ、積極的な改善提案**を行い、東京都と連携しながら施設改善につなげることができた。



収支状況

3 収支(単位:千円)				
項目	令和5年度 金額	令和4年度 金額	令和3年度 金額	公園別支出額
収入計	834,954	753,519	711,050	戸山公園：124,244 善福寺公園：91,312
内 指定管理料	834,954	753,519	711,050	高井戸公園：83,463 浮間公園：98,842
内 利用料金	0	0	0	赤塚公園：133,746 石神井公園：168,969
支出計	830,322	724,522	700,227	大泉中央公園：88,392 練馬城址公園：41,354
収支差	4,632	28,997	10,823	